東播磨の田園に初秋を訪ねる　2015.9.11.

加古川中流の名勝　滝野 闘竜灘・　彼岸花の里　多可町　・　酒米「山田錦」の里　加東・三木吉川







中国山地　氷上分水界から南へ東播磨の中央を流れ下る加古川　2015.9.11.　小野市粟生で

1. 加古川沿い北へ　加古川中流の名勝　滝野 闘龍灘へ
2. さらに北へ遡り、多可町のの彼岸花
3. 帰りは加東・三木の酒米 山田錦の里を訪ねる



加古川の中流　名勝　闘竜灘



彼岸花の里　多可町



酒米「山田錦」の里　加東・三木吉川

初秋の東播磨の田園を訪ねる　2015.9.11.

1. 加古川沿いを来住野から滝野の闘竜灘へ
2. さらに北へ遡り、多可町の間子の彼岸花
3. 帰りは加東・三木の酒米 山田錦の里を訪ねる

多可町

彼岸花の里
多可町

西脇

加古川の名勝
滝野・闘竜灘

青野ヶ原

加東市・社

酒米山田錦の里
加東・三木・吉川

吉川

小野

丹生山・山田

押部谷

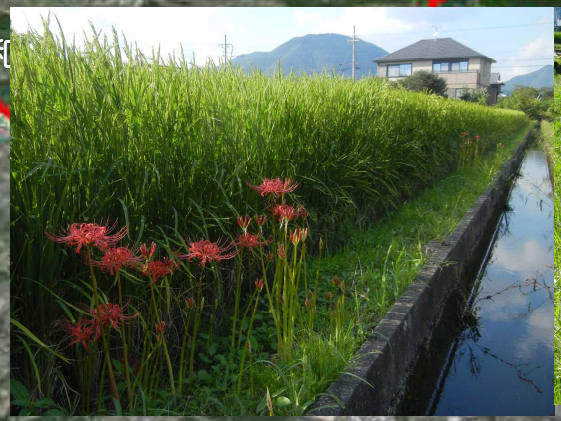
高和














初秋の東播磨の田園を訪ねる　2015.9.11.
1. 加古川沿いを来住野から滝野の闘竜灘へ
2. さらに北へ遡り、多可町の間子の彼岸花
3. 帰りは加東・三木の酒米 山田錦の里を訪ねる
彼岸花の里
多可町
加古川の名勝
滝野・闘竜灘
酒米山田錦の里
加東・三木・吉川
播磨
多可
西脇
加西
小野
三田
三木
岩谷峠
有馬
六甲山
神戸
明石
加古川
高砂
姫路
大阪府
堺
播磨灘


初秋の東播磨の田園を訪ねる　2015.9.11.
1. 加古川沿いを来住野から滝野の闘龍灘へ
2. さらに北へ遡り、多可町の間子の彼岸花
3. 帰りは加東・三木の酒米 山田錦の里を訪ねる
多可町
彼岸花の里
多可町
西脇
加古川の名勝
滝野・闘竜灘
青野ヶ原
加東市・社
酒米山田錦の里
加東・三木・吉川
吉川
小野
来住野・
小野町
三　木
淡河
丹生山・山田
押部谷
神出
高和
Image Landsat
Image © 2015 DigitalGlobe

台風も過ぎ去り、久しぶりに　晴れの9月11日　空澄み渡り、　爽やかな風か吹く。
家にいる手はないと　原チャリに乗って戸外へ。
この時期　いつものコース　加古川の土手を北に走ろう

JR小野町駅の「きすみの」で蕎麦を食べて
今年の夏に行こうと思いながら行けなかった清流　闘竜灘をみて、
多可町まで　遡り、妙見山と彼岸花の咲く田園へ、
ちょっと早いが、多可町彼岸花の里「間子」の彼岸花に出会えるかも・・・・・

帰りは　加古川沿いの国道175号を南下せず、滝野□社ICから東へ入って、
もう一つ初秋　東播磨の風物詩　灘の酒蔵の旗がはためく酒米「山田錦」の里
加東・三木からに立ち寄って帰ろうと・・・・・

2015.9.11. 粟生周辺　　加古川　の土手で

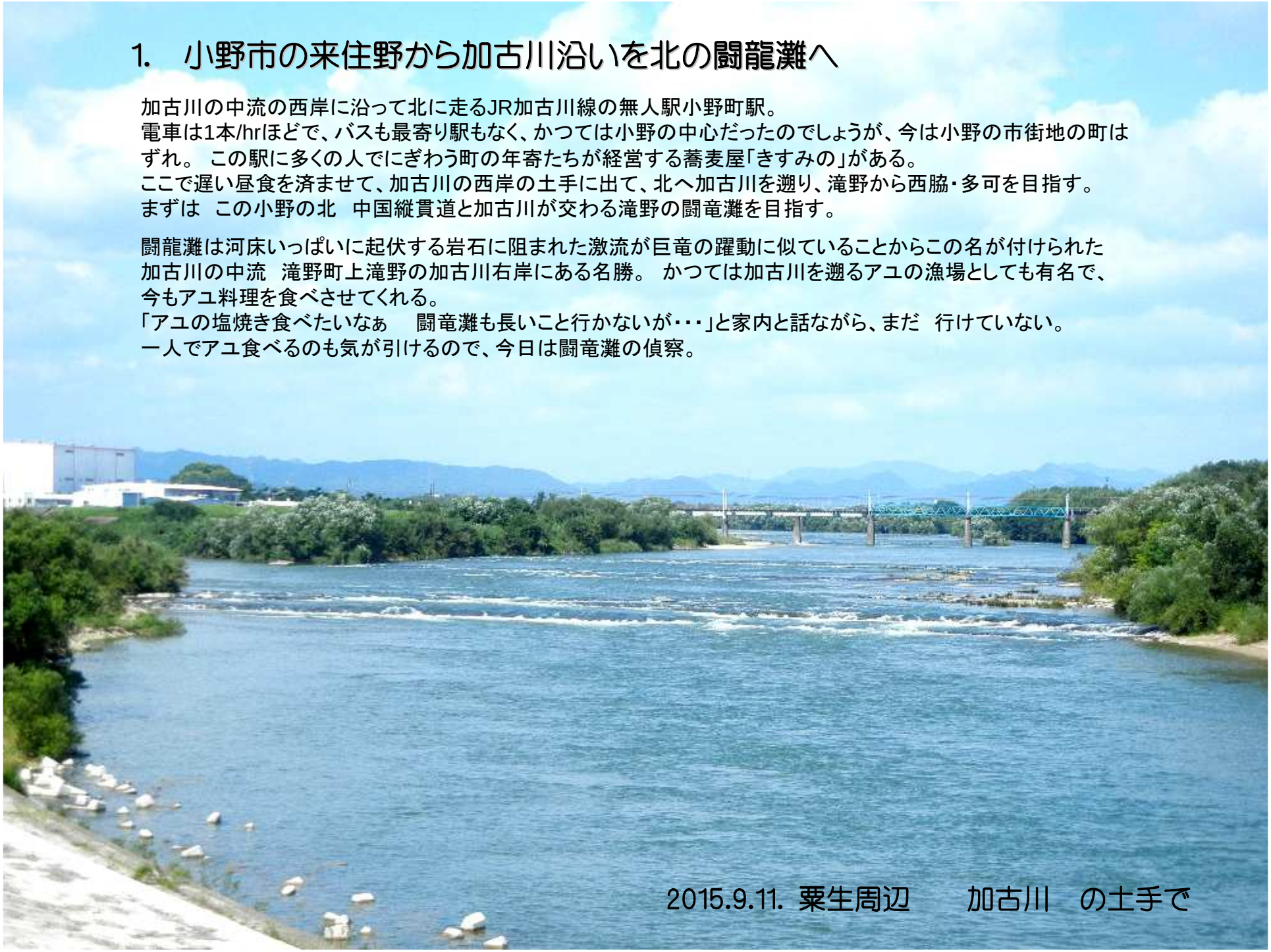



妙見山
彼岸花の里
間子集落
多可町
黒田庄
西脇
加古川の名勝
滝野・闘竜灘
国道175線
幻の酒米
「愛山」の里
加東市藤田
中国縦貫道
JR社駅
加東市
加古川
小野市
国道175線
Image © 2015 DigitalGlobe
初秋の東播磨の田園を訪ねる　2015.9.11.
1. 加古川沿いを来住野から滝野の闘竜灘へ
2. さらに北へ遡り、多可町の間子の彼岸花
3. 帰りは加東・三木の酒米 山田錦の里を訪ねる

1.　小野市の来住野から加古川沿いを北の闘龍灘へ

加古川の中流の西岸に沿って北に走るJR加古川線の無人駅小野町駅。
電車は1本/hrほどで、バスも最寄り駅もなく、かつては小野の中心だったのでしょうが、今は小野の市街地の町はずれ。 この駅に多くの人でにぎわう町の年寄たちが経営する蕎麦屋「きすみの」がある。
ここで遅い昼食を済ませて、加古川の西岸の土手に出て、北へ加古川を遡り、滝野から西脇・多可を目指す。
まずは　この小野の北　中国縦貫道と加古川が交わる滝野の闘竜灘を目指す。

闘龍灘は河床いっぱいに起伏する岩石に阻まれた激流が巨竜の躍動に似ていることからこの名が付けられた
加古川の中流　滝野町上滝野の加古川右岸にある名勝。 かつては加古川を遡るアユの漁場としても有名で、
今もアユ料理を食べさせてくれる。
「アユの塩焼き食べたいなぁ　闘竜灘も長いこと行かないが・・・」と家内と話ながら、まだ　行けていない。
一人でアユ食べるのも気が引けるので、今日は闘竜灘の偵察。



2015.9.11. 粟生周辺　　加古川　の土手で







加古川中流の名勝　闘竜灘

加古川の中流　滝野町上滝野の加古川右岸にある名勝。
河床いっぱいに起伏する岩石に阻まれた激流が巨竜の躍動に似ていることからこの名が付けられた。
かつては加古川を遡るアユの漁場としても有名で、今もアユ料理を食べさせてくれる。


2015.9.11. 粟生周辺　　加古川　の土手で



黄金色に色好き始めた東播磨　粟生周辺の田園　　2015.9.11.
田園の向こうに青野ヶ原が南北にのびる



東に加古川の土手　西に青野ヶ原の丘が南北に伸び、
その間に挟まれて、まもなく実りの秋を迎える田園がどこまで続く、
小野市粟生周辺　加古川西岸の田園で　2015.9.11.



加古川西岸の堤　加西市新大河橋周辺　　2015.9.11.
播磨平野の北辺　中国縦貫道の北に連なる山々が見える



加古川西岸の堤　小野市新大河橋周辺　　2015.9.11.

南へ流れ下る加古川　このあたりから川底に岩が見られるようになり、滝野の闘竜灘はもうすぐ


JR加古川線　青野ヶ原駅の東　大門橋周辺で　　2015.9.11.



小野市の北端から加東市の社に入る　　2015.9.11.
加古川が大きく東へカーブし、闘龍灘へ向かう

集落を縫って北へ加古川に沿っての街道筋
中国道の高架をくぐって　滝野の街の中心に入る
滝野の街の中を走り抜け、闘竜灘にかかる闘竜橋を越えてしまいましたが、
闘竜灘の河原に入るには、向こうの橋のそばの細い道を入らないと
以前いったことのある川岸の観光スポットへ行けない。



滝野　闘竜灘にかかる闘竜橋　　2015.9.11.



滝野　闘竜灘　　2015.9.11.


滝野　闘竜灘　　2015.9.11.





滝野　闘竜灘　　2015.9.11.


滝野　闘竜灘　2015.9.11.


滝野　闘竜灘　2015.9.11.


滝野　闘竜灘　　2015.9.11.


滝野　闘竜灘　　2015.9.11.


滝野　闘竜灘　　2015.9.11.


滝野　闘竜灘　2015.9.11.


滝野　闘竜灘　　2015.9.11.




滝野　闘竜灘　2015.9.11.


滝野　闘竜灘　2015.9.11.


滝野　闘竜灘　　2015.9.11.


滝野　闘竜灘　　2015.9.11.



闘竜灘から加古川西岸に沿って　北へ街中を抜けて西脇市の野村に出る。
ここからはいつも国道175号線を遡って多可町へ行く時の道。よく知った道だ。
東北へカーブする加古川と別れ、 加古川に注ぐ杉原川に沿って多可町に入り、さらに北へ。
田園の中を行くと　ほどなく前方に多可町のシンボル　妙見山が見え、田園の中に集落がぽつぽつとある多可町にはいり、間子の集落へ
この時節　田圃の畔に赤い彼岸花が点々と連なって沿咲くのが見えるのですが、ちょっと早すぎたようだ

もう一つ　びっくりしたことがある。 この多可町が酒米「山田錦」発祥の地。 そして　広がる山田錦の畔に「秋田村」の旗が幾つもひろがっていました

闘竜灘から加古川西岸に沿って　北へ街中を抜けて西脇市の野村に出る。
ここからはいつも国道175号線を遡って多可町へ行く時の道。
東北へカーブする加古川と別れ、 加古川に注ぐ杉原川に沿ってさらに北へ。
よく知った道。 田園の中を行くと　ほどなく前方に多可町のシンボル　妙見山が見え、
田園の中に集落がぽつぽつとある多可町にはいり、間子の集落へ

この時節　田圃の畔に赤い彼岸花が点々と連なって沿咲くのが見えるのですが、ちょっと早すぎたようだ



東播磨　多可町の象徴　妙見山を背に　多可町間子集落の田園　2015.9.11.
お彼岸近くになるとこの土手にも彼岸花が咲き誇るのですが、少し早かったようだ


東播磨　多可町間子集落　2015.9.11.







秋桜も田圃の畔を飾って秋の訪れ　東播磨 多可町間子集落の田園で　2015.9.11.

多可町に入ると多可町の象徴妙見山をバックに広がる間子集落周辺の田園いたるところに、
「秋田村」の旗が翻っている。背の高い大きな「山田錦」の田である。
初秋　三木・吉川・　吉川の東播磨の田圃には灘の酒蔵の旗が翻り、
兵庫の初秋の風物詩と思っていましたが、多可町に「秋田村」出現です。



東播磨　妙見山をバックに多可町間子集落の田園
「秋田村」の旗が何本も翻っている　2015.9.11.

「山田錦」は灘の酒蔵のみならず、全国の酒蔵が酒米として使っているので、
不思議ではありませんが、それにしても広大な山田錦の田園。
気が付きませんでした。 いつから何だろうか・・・・・

不思議に思えて　インターネットを調べると
多可町は「山田錦」発祥の地だそうだ。
「山田錦」は、「山田穂」と「短稈渡船」との交配から誕生しましたが、
母方の「山田穂」の生まれ育ったのが兵庫県多可町。
それで、多可町は「山田錦発祥の地」の看板を掲げているのだそうで、
もちろん、「山田錦」の一大産地でもあるようです。

この発祥の地に秋田村が出現したのは、秋田県の各蔵元に
“多可町の山田錦”をとの熱い思いで作る田んぼの愛称名なのだそうだ。



東播磨　多可町間子集落の田園
「秋田村」の旗が何本も翻っている　2015.9.11.



東播磨：多可町間子集落の田園に「秋田村」の旗　2015.9.11.
時期的に少し早かったのですが、畔には彼岸花が咲き始めていました


東播磨　多可町間子集落の田園で　2015.9.11


東播磨　多可町間子集落で　2015.9.11.



東播磨　多可町間子集落の田園で　2015.9.11.


東播磨　多可町間子集落の田園で　2015.9.11.


東播磨　多可町間子集落の田園で　2015.9.11.


東播磨 多可町間子集落の田園で 2015.9.11.


東播磨　多可町間子集落の田園で　2015.9.11.

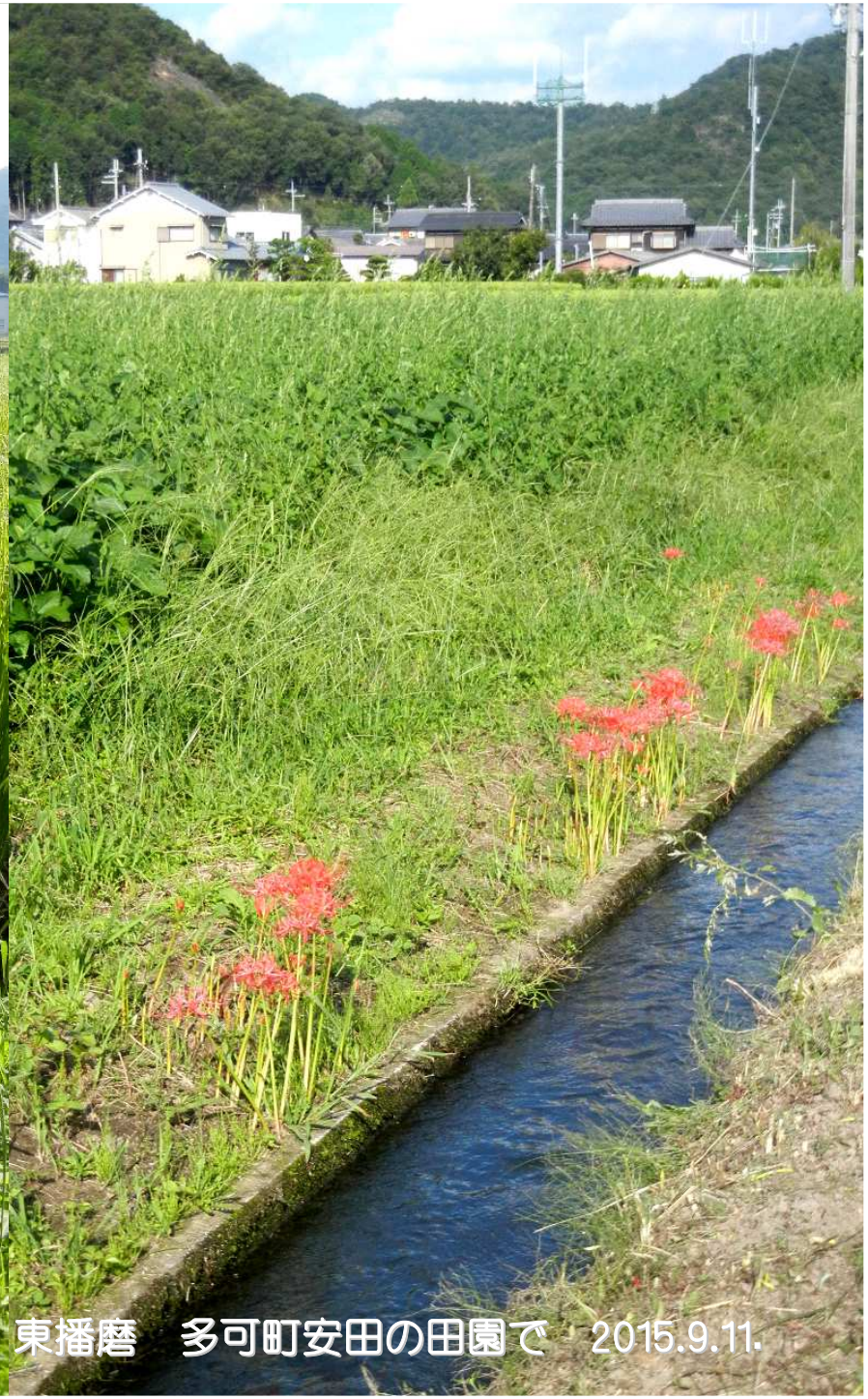


間子から少し下って　杉原川沿いを東へ　東西に細長くのびる安田の田園に出ました
この田園のあちこちにも酒米の旗が畔に立ち、ここの畔でも彼岸花が咲き始めていました

東播磨　多可町安田の田園で　2015.9.11.

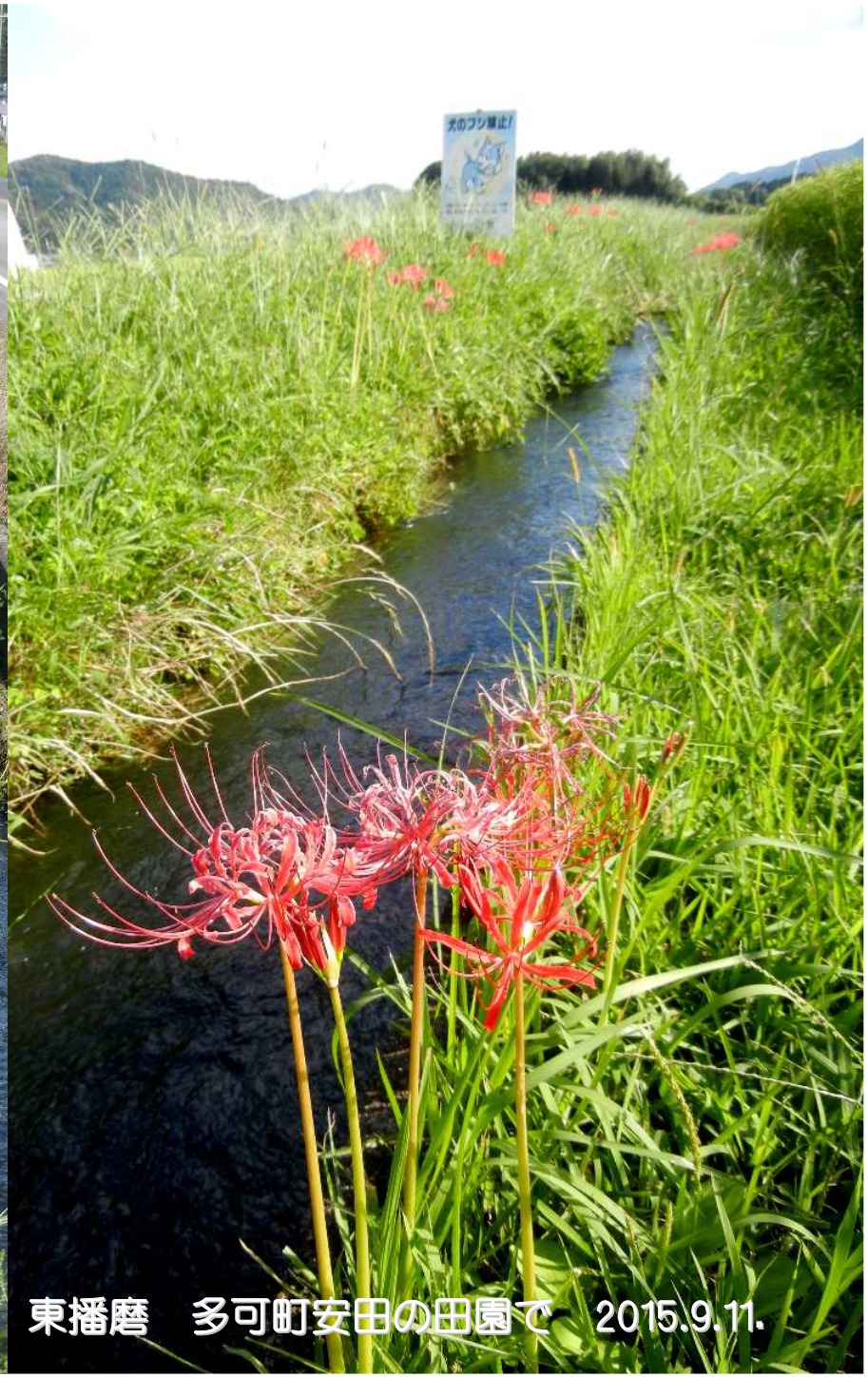

東播磨　多可町安田の田園で　2015.9.11.





東播磨　多可町安田の田園で　2015.9.11.





東播磨　多可町安田の田園で　2015.9.11.



杉原川がこの東安田で山に阻まれ、90度曲がって田園の中を南の西脇へ下ってゆく。
山裾の東安田の交差点に出て、このまま東へ山間に入れば、トンネルを抜けて黒田庄。
国道175号線が南北に走る加古川沿いに出るのですが、右手南側に広がる緑の田園風景
に惹きつけられて、東に折れて南の西脇へ下ってゆく。

東播磨　多可町東安田の田園で　2015.9.11.



この東安田の南側に広がる田園には「白鶴錦」の案内板。
何度も多可町に来ましたが、こんなに酒蔵の旗や案内板が立っているのは記憶がない。
この多可の町でも、酒米づくりが盛んであること
また、多可町が山田錦発祥の地の一つであることを初めて知りました。

東播磨　多可町東安田の田園で　2015.9.11.


多可町
彼岸花の里
多可町
中国道
滝野・社IC
西脇
加古川の名勝
滝野・闘竜灘
幻の酒米「愛山」栽培地
加東市藤田
東条
青野ケ原
加東市・社
吉川
酒米山田錦の里
加東・三木・吉川
小野
来住野・
小野町
淡河
三　木
丹生山・山田
押部谷
神出
高和
神戸西
企業団地
神戸西IC
鈴蘭台
Image Landsat
Image © 2015 DigitalGlobe



3.　酒米「山田錦」の里を訪ねる
加東・三木・吉川

帰りは滝野・社ICの直ぐ南から、東へ折れて　加東市の東条・吉川へ。　多可町の田園に数多く酒蔵の旗がはためいていましたが、やっぱり酒米「山田錦」の里は三木・吉川だろうと・・・。
いつもは国道175号線を小野市天神まで下って、ここから東へ吉川の方へ行くのですが、滝野・社ICのすぐ南で社・東条への案内標識をみて、　滝野から東へ折れて三木・吉川の方へ出て、そこから　南へ。丘陵地に広がる山田錦の田園を眺めながら、淡河・丹生山を越えて神戸に帰ることにした。



県道17号線　木梨の集落から東側に広がる田園の畔に　何本も白と黒の剣菱の旗が翻っている。
写真正面奥　北の山裾を中国道が走り、　その手前　左端に安住寺　　右奥には三草山が見えている
加東市木梨の田園で　　2015.9.11.

灘の酒蔵　剣菱の「山田錦」の契約地が口吉川の細川町他吉川や三木にあるのは知っていましたが、、
「愛山」の名の付く酒米についてはよく知りません。 剣菱がこの加東市藤田集落周辺にも酒米の契約地を持っているのだとその時は軽く思っていました。
家に帰って酒米「愛山」を調べてびっくり。
インターネットに幻の酒米「愛山」の名とともに、「愛山」は酒米の最高峰なんだと。 びっくりしました。

兵庫県産の酒米の最高峰 「山田錦」と「愛山」。
「愛山」は栽培が非常に難しい品種でもあり、「山田錦」よりも値段が高く貴重なんだと。
「愛山」は独特の酒造適性を持っているため蔵元の関心を集め、生産量が少ないために
“幻の酒米”といわれ、剣菱が唯一40年余り契約栽培で守り続けた酒米だという。
この米は粒が大きくて心白が出やすく、麹と溶けやすい性質があり、
剣菱が最も得意とする伝統的な日本酒造り技法「純米生酛」の酒造りに最高の性質なのだそうだ。



剣菱の酒造りに欠かせぬ酒米「山田錦」の相棒がこの地で栽培される酒米「愛山」であること初めて知りました

県道17号線　加東市木梨で　2015.9.11.

酒造りに必須の原料・副原料　＆　酒米「愛山」を生かす伝統の酒造り法「生酛　」

1.「蒸し米」 酒の原料　　2.「麹・麹菌」　蒸し米のデンプンをブドウ糖に変える
3.「酒母・乳酸菌」 ブドウ糖をアルコールに変える　4.「水」。

酒米「愛山」は昭和17年兵庫農試において「愛船117」と「山雄67」を交配、昭和24年に「愛山11号」の系統名で試験栽培されたが、昭和26年に打ち切られた。その後付近の農家が種子を増殖し、「愛山」と命名し慎ましく栽培されてきた。
唯一灘の酒蔵メーカー剣菱はこの酒米「愛山」を、40年余り契約栽培で守り続けてきたという。
その理由は　時間と手間はかかるが、剣菱の最も得意とする自然環境に任せた伝統技法でしっかりとした酒質?が作れる生酛（きもと）による酒造りにこの酒米「愛山」が最も適した性質を持っていたからと言われる。
その中身はよく知らないが、

酒米「愛山」は米は粒が大きくて心白が出やすく、麹と溶けやすい性質があり、
乳酸菌を空気中から取り込んで、乳酸を作らせ、雑菌や野生酵母を駆逐する
伝統的な日本酒造り技法の純米生酛をやるには最高の性質だと言われているようだ。
生酛（きもと）は、現存する酒造りの技法の中でもっとも伝統的な造り方で、
自然環境下で培養される強い酵母による酒造りのため、大変な労働と所要時間が長いため、次第に工程を省略する手法が探究され、明治時代に山廃酛（やまはいもと）が、ついで速醸酛（そくじょうもと）が考案され、一時期、生酛造りはほとんど行なわれなくなったが、近年の伝統再評価の流れの中でふたたび脚光を浴びつつあるという。

酒造りで大量の米を発酵させるためには、酵母が、米の量に見合っただけの何百億、何千億もの微生物である酵母が必要となる。この酵母を増やす(酛立て・酒母造り)ため、高さ1mほどの桶に、麹と冷たい水を入れ、それらをよく混ぜて、水麹（みずこうじ）と呼ばれる状態を作り、そのあと水麹に醸造用乳酸と、採用すると決めた酵母を少量だけ入れる。
これに蒸し米を加えると酒母造りの仕込みは完成する。
あとは製法によって2週間から1ヶ月待つと、仕込まれた桶の中で酵母が大量に培養され酒母すなわち酛の完成となる。

伝統的技法である生酛（きもと）とは、最も古くから続く製法で、乳酸菌を空気中から取り込んで、乳酸を作らせ、雑菌や野生酵母を駆逐する技法で、酒母になるまでの所要期間は約1か月と長いが、成功すればしっかりとした酒質となる。
このため、この方法に魅力を感じ、　伝統の復活のために取り組んでいる酒蔵も増えてきている。
工程が多く手間が掛かり、醗酵段階も完全醗酵させるので所要期間が長く、現在でも時間や労力が掛かるので敬遠される傾向にある。

酵母を増やす行程　酒母造り　「酛立て」（もとだて）という

◆生酛
米、麹、水を桶（タンク）に投入 > 山卸 > 温度管理 > 酵母添加 > 温度管理 > 酒母完成
(山卸とは米と麹と水を櫂で混ぜる作業のことで「酛すり」ともいう)
◆山廃酛　　生酛造りの工程から山卸を除いたもの
米、麹、水を桶（タンク）に投入 >　温度管理 > 酵母添加 > 温度管理 > 酒母完成
◆速醸酛
米、麹、水、乳酸を混ぜる > 酵母添加 > 温度管理 > 酒母完成


加東市木梨　　安住寺前から眺めた南東側の田園　　2015.9.11.



加東市木梨　安住寺前から眺めた南東側　藤田集落と千鳥橋　2015.9.11.



加東市木梨の千鳥橋から北西側に広がる田園　2015.9.11.

この広さから察すると剣菱が使う酒米「愛山」のほとんどは加東市のこの契約栽培地で作られたもののようだ。



千鳥川に沿って県道17号を東の東条へ　　加東市社上久米周辺で　2015.9.11.



千鳥川に沿って県道17号を東の東条へ　　加東市社上久米周辺で　2015.9.11.

東条天神の三木・小野への案内標識で南へ中国道の高架をくぐって県道75号線に入り
東条川沿いを東条町新定までくだり、ここから右手山越えして　口吉川へ出る







酒米「愛山」の里
社町木梨・藤田





東条町に新定の信号を左に入り、山越えして口吉川へ



東条町新定　　東条川を渡り、県道144を南へ　山越えして口吉川へ 2015.9.11.

東条川沿いの今通ってきた東条町の街並が見えている



県道144を南へ　山越えして口吉川への道で　2015.9.11.



県道144を南へ山越えして口吉川へ
口吉川の田園が見えてくる　もう夕暮れが近い　　2015.9.11.



口吉川からさらに南へ県道144号を山越えして　三木市細川へ出る
もう夕暮れが近い　三木市細川の田園　　2015.9.11.



峠を越え、山陽自動車道の高架をくぐるとまもなく眼下に
見慣れた丹生山の山並みと細い谷筋に広がる淡河の集落が見える
暗くなる前に家まで帰りつけるとほっとする


午後5時を過ぎて　秋の夕暮れはつるべ落とし、　もうすぐに日没に





この淡河の田園の畔に入ると剣菱の旗がひらめいていました　2015.9.11.



午後5時を過ぎて　秋の夕暮れはつるべ落とし、　もうすぐに日没に
目の前に並ぶ丹生山塊の山を越えて北神戸の箕谷･山田へ急ごう

久しぶりの晴天に東播磨の田園を訪ねた一日
爽快感一杯で　丹生山を越えてゆく

2015.9.11.　by Mutsu Nakanishi

初秋の山田錦の里 加東•三木吉川　日没まじか 播磨の里の夕暮れ 実りの田を陽の影が渡りゆく　2015.9.11.



米の王者　兵庫産「山田錦」と思っていましたが、
もう一つなくてはならぬ「愛山」と言う酒米があるのを知りました。

最近の日本酒ブームでその評価が益々高くなる「愛山」は
灘の酒造メーカーと加東市の一地区の契約農家が40年かけて守り抜いた幻の酒米と聞く。

東播磨の北の丘陵地棚田に広がる酒米の田の畔に翻る旗には
酒造メーカーそれぞれと契約農家の強い思いが毎年毎年受け継がれてきたのでした。

酒米の田の畔に翻る旗は酒蔵と酒米契約農家との強い絆　そして　今年もうまい酒ができる印なんだと。
今年初めて知った幻の酒米「愛山」 この新酒は是非買い求めたいなぁ・・・・・と。

【　参考　インターネット検索で知った「愛山」の話　】

1. **幻の酒米"愛山"　あぜ道日誌　ほか**
   http://www.okomeno-tawaragura-ask.jp/azemichi/2013/06/post-174.html　他
2. **剣菱に宿るもの　　http://www.kenbishi.co.jp/story/person4/**







午後５時を過ぎて　秋の夕暮れはつるべ落とし、　もうすぐに日没に
目の前に並ぶ丹生山塊の山を越えて　北神戸の箕谷・山田へ急ごう
久しぶりの晴天に東播磨の田園を訪ねた一日
豪快な闘竜灘の流れも久しぶり　　彼岸花の里　多可町　田園の秋
そして　夕暮れ近く　里山の間に広がる棚田　酒米の里も健在
東播磨の初秋に　新しい発見も加わって
爽快感一杯で　　初秋の風を感じながら　丹生山を越えてゆく

2015. 9.　11.　日没まじか　　by Mutsu Nakanishi

初秋の東播磨の田園を訪ねる　2015.9.11.

1. 加古川沿いを来住野から滝野の闘竜灘へ
2. さらに北へ遡り、多可町の間子の彼岸花
3. 帰りは加東・三木の酒米 山田錦の里を訪ねる

多可町

彼岸花の里
多可町

西脇

加古川の名勝
滝野・闘竜灘

青野ヶ原

加東市・社

酒米山田錦の里
加東・三木・吉川

吉川

小野

丹生山・山田

押部谷

高和









